

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11)実用新案登録番号

第2523711号

(45)発行日 平成 9 年(1997) 1 月29日

(24)登録日 平成 8 年(1996)10月22日

| (51)Int.Cl. ⁶ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|--------------------------|------|--------|---------------|--------|
| A 6 1 F 13/15 | | | A 4 1 B 13/02 | G |
| 13/46 | | | | B |

請求項の数 1 (全 3 頁)

| | | | |
|----------|---------------------|------------|-------------------------|
| (21)出願番号 | 実願平4-28866 | (73)実用新案権者 | 000115108 |
| (22)出願日 | 平成 4 年(1992) 4 月30日 | | ユニ・チャーム株式会社 |
| (65)公開番号 | 実開平5-86320 | | 愛媛県川之江市金生町下分182番地 |
| (43)公開日 | 平成 5 年(1993)11月22日 | (72)考案者 | 丹治 浩之 |
| | | | 愛媛県川之江市川之江町2436- 1 |
| | | (72)考案者 | 和田 一郎 |
| | | | 愛媛県川之江市金田町半田乙385- 1 - 3 |
| | | (72)考案者 | 谷 優子 |
| | | | 愛媛県川之江市川之江町3314-28 |
| | | (74)代理人 | 弁理士 白浜 吉治 |
| | | 審査官 | 松縄 正登 |
| | | (56)参考文献 | 特開 平 2 - 60645 (J P, A) |
| | | | 実開 平 4 - 15921 (J P, U) |
| | | | 実開 平 3 - 29123 (J P, U) |

(54)【考案の名称】 使い捨ておむつ

(57)【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】透液性表面シートと、不透液性裏面シートと、これら両シートの間に介在する吸収体とからなり、前記吸収体の股下区域に該吸収体の上面からくぼむ便溜め凹部を有する使い捨ておむつにおいて、前記便溜め凹部が、前記吸収体の上面から隆起し該凹部の上周縁を画成する隆起部を有し、かつ、該隆起部が、前記吸収体の他の部分よりも柔軟性を有することを特徴とする前記使い捨ておむつ。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この考案は、使い捨ておむつに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、多くの使い捨ておむつは透液性表

面シートと不透液性裏面シートとの間に吸収体を介在させて構成してある。吸収体には粉碎パルプと高吸水性ポリマーとの混合物を砂時計型や矩形に賦型したものが多く利用されている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】このような吸収体およびそれを覆う表面シートが平坦につくられており、排泄された便がおむつ股下で広範囲に広がるのを避けることができず、そのためおむつ着用者の股下から臀部・腰部にわたる広い範囲が汚れることも避け難い。

【0004】そこで、この考案は、吸収体に便溜めを設けることにより、そのような便の広がりを抑制することを課題にしている。

【0005】

【課題を解決するための手段】この考案が前記課題を解

決するために要旨とするところは、次のとおりである。

【0006】この考案では、透液性表面シートと、不透液性裏面シートと、これら両シートの上に介在する吸収体とからなり、前記吸収体の股下区域に該吸収体の上面からくぼむ便溜め凹部を有する使い捨ておむつを前提にしている。

【0007】この前提において、前記便溜め凹部が、前記吸収体の上面から隆起し該凹部の上周縁を画成する隆起部を有し、かつ、該隆起部が、前記吸収体の他の部分よりも柔軟性を有することが、この考案の特徴である。

【0008】

【作用】このように構成した使い捨ておむつでは、隆起部に囲まれた便溜め凹部を肛門のあたりに位置させて、排泄された便をここで受けとめ、便の広がりを抑制する。便溜めの周囲は隆起部にしてあり、この部分を臀部に当てがうことにより、排泄時に横に逃げることがないように便を便溜めに導く。

【0009】

【実施例】この考案の詳細を添付の図に基づいて説明すると、以下のとおりである。

【0010】図1は、この考案に係る使い捨ておむつ1を一部破断して示す斜視図である。おむつ1は、透液性表面シート2、不透液性裏面シート3、両シート2・3の間に介在する吸収体4を備え、その他に両側縁内側において両シート2・3間に伸張下に貼着した脚周り弾性部材5、後身頃14において両側縁に設けた連結テープ6を有する。おむつ1の長手方向は前身頃12・股下部13・後身頃14におおよそ区分することができ、股下部13においては吸収体4の表面に便溜め7が設けてある。

【0011】図2は、図1のII-II線断面図であって、便溜め7の詳細を示す。吸収体4にはおむつ1の幅方向中央にほぼ円形の便溜め7を設けてある。便溜め7は、吸収体4の上面からくぼみ底面が厚みAを有する凹部20と、吸収体4の上面から隆起し凹部20の周縁を画成する隆起部21とから形成し、便溜め7を除く外周部22は実質的に平坦に延在している。各部の厚みA、B、Cは、 $B > C \geq A$ にしてある。便溜め7は、吸収体4をそのように賦型してつくられており、一方、表面シート2は賦型するか、またはたるみを持たせて吸収体4の賦型形状になじませてあって、必要に応じ表面シート2の裏面と吸収体4の表面とを間欠的に接合し、表面シート2が徒らに動かないようにしておくことができる。

【0012】このように構成したおむつ1は、便溜め7

が肛門の位置となるように着用すると、排泄した便の多くをここにとどめ、その広がりを抑えることができる。凹部20の周縁は隆起部21を設けて高くしてあるから隆起部21が肛門周囲をシールするように臀部に密着し易く、便が横に逃げないように凹部20へ効果的に便を導き入れることができる。凹部20の平面形状は、図示例の円に限らず長円・矩形等の適宜の形状にすることができる。

【0013】吸収体4に便溜め7を設けるには、その形状を備えた成型型の上に粉碎パルプ等の原料を散布して供給し、その形状を写しとるか、所定厚みのウェブを成型型で加圧して賦型する等の方法があり、必要なら原料は湿潤状態や加熱状態でそれらの加工を行うことができる。おむつ1について、その他の構成材料、およびそれらを組み付ける手段には公知、ないし周知の技術を利用することができる。吸収体4の上面における隆起部21、すなわち厚みDの部分は、吸収体4の他の部分よりも柔軟性であるか、圧縮弾性を高くしてあることがより好ましい。

20 【0014】

【考案の効果】この考案に係るおむつでは、股下部に便溜め凹部を設けてあるから、便が股下部・臀部・腰部に広がるのを抑え、着用者の身体を汚すことがないのはもちろんのこと、該凹部の上周縁は吸収体の上面からの隆起部によって画成されているから、臀部に近接または密着し易くて便受容機能を十分に果たし、しかも隆起部は吸収体の他の部分よりも柔軟性を有するから、該隆起部が臀部に密着しても着用者に違和感を与えるおそれがない。

30 【図面の簡単な説明】

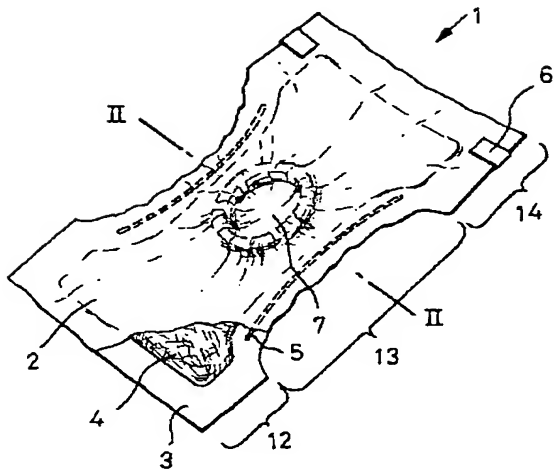
【図1】この考案に係るおむつを一部破断して示す斜視図。

【図2】図1におけるII-II線断面図。

【符号の説明】

- | | |
|----|---------|
| 1 | 使い捨ておむつ |
| 2 | 表面シート |
| 3 | 裏面シート |
| 4 | 吸収体 |
| 7 | 便溜め |
| 13 | 股下部 |
| 20 | 凹部 |
| 21 | 隆起部 |
| 22 | 周辺部 |

【図 1】



【図 2】

